

※手話通訳・パソコン要約筆記あり

カミングアウトについて - そのメリットとデメリットを考える -

近年、テレビ等において、「カミングアウト」という言葉を聞く機会が多くなりました。おもに「目には見えないマイノリティー」に関連して言われていますが、いろいろなカミングアウトがあると思います。では、カミングアウトが必要になる背景は？そしてメリットとデメリットはそれぞれ何か？一緒に考えてみましょう。

2018年 7月 22日(日)

13:30~16:15

(受付開始: 13:00)

第一部 講演 網谷勇氣さん(NPO法人バブリング 代表理事)

第二部 パネルディスカッション

網谷勇氣さん 姜博久さん(障害者自立生活センター・スクラム) 根箭太郎(当センター職員)
瀧本香織(当センター職員) 上田哲郎(コーディネーター、当センター管理者)

場所: 蛍池公民館 第2集会場
(旧豊中市立ルシオーレホール 阪急・モノレール蛍池駅隣接ビル4階)

参加費: 無料

申込み: 不要(当日、直接会場にお越し下さい。)

※点訳資料が必要な方は、事前にご連絡願います。

お問合せ

NPO法人CIL豊中 豊中市障害者自立支援センター

電話: 06-6857-3601 / FAX: 06-6857-3602

メール: ziritu@ciltoyonaka.com

(担当: 根箭・大東)



会場までのアクセス

プログラム

13:30～13:40

開会 主催者開会挨拶

13:40～14:30

【第一部】講演

14:30～14:50

休憩

14:50～15:50

【第二部】パネルディスカッション

15:50～16:10

質疑応答

16:10～16:15

主催者閉会挨拶 閉会

講師・パネリスト紹介



網谷 勇氣 (講師)

1978年、東京都生まれ。情報サービス大手企業、ITベンチャー企業などを経て、現在は児童養護施設から社会に巣立つ子どもたちの自立支援に取り組むNPO法人「ブリッジフオースマイル」の職員、理事。2014年、『大切な人へのカミングアウトを応援する』NPO法人バブリングを設立。主にメディア出演や学校等での講演、ワークショップ開催を担う。

姜 博久

1960年、大阪市生野区で在日コリアンの両親のもとに生まれる。1976年、府立勝山高校に入学、社会の中での障害者の位置を実感として味わう。1980年、関西大学夜間に入學。大学で福祉の勉強はしないと誓ったはずが、卒論では奈良の大仏さんが作られた頃の障害者の法制度の実態を研究し、卒業後学内の雑誌に発表する。関大卒業後、片脚を突っ込んでいたことが縁で、全障連関西ブロック事務局員として本格的に障害者運動の渦中に身をゆだねる。2003年、大正区で障害者自立生活センター・スクラムを立ち上げ、相談事業とヘルパー派遣事業を始める。

根 箭 太郎

1973年、豊中市生まれ。1997年8月にボランティアで初めて障害者と関わったのが切っ掛けとなり、1998年4月より現NPO法人CIL豊中などでヘルパー活動を開始。2001年3月よりCIL豊中の職員となる。2013年12月、広汎性発達障害・ADHDと診断された。現在は広報誌編集長などを務める。

瀧本 香織

1979年、先天性多発性関節拘縮症という障害を持って生まれる。箕面市の地域の学校に通う、卒業後はオペレーターとして一般企業へ就職したが、体調を崩して退職。その後、2012年から豊中市障害者自立支援センターでピアカウンセラーとして活動を始める。

上田 哲郎 (コーディネーター)

1976年、小倉で生まれる。1983年、大阪府立茨木養護学校入学。1985年、豊中市立東豊台小学校へ転校し、その後は、市立第十五中学校を経て、府立箕面東高校へ入学。箕面東高校では、「障害者問題を考える会」に参加。現在はNPO法人CIL豊中、管理者兼相談支援専門員、ピアカウンセラー。